

目 介 祐



大田ゆうすけ No.11
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

知事が鞆の架橋計画を撤回

7月9日、広島県主催の「鞆地区の地域振興に関する住民説明会」に参加した。残念ながら架橋を望む多くの住民がボイコットした。8年前の市長選における羽田市長の公約の「丁目1番地は「鞆港の埋め立て架橋」であり、市長を説得せず長年にわたり架橋を待ち望んできた住民を説得することはかなりの困難が予測される。市長は政治生命を賭けて架橋を推進してきたのだから、その市長に翻意を促す知事の責任は重大だ。政治は数字や「良い・悪い」だけでは決まらない、感情にも左右されるのだ」ところが世間の評価はどうも市長に分が悪い。架橋にこだわると市長や鞆の住民を批判するのはたやすい、しかし合意が得られなければ知事のトンネル案も前進しないだろう。

ここまで書くと、大田は市長寄りだと言つてもいるだろう。

退傾向にあるということに知事も市長も気付いておられるのだろうか。今後の福山市の生産者人口は減少し、65歳以上の高齢者が増加の一途をたどる。20年もすれば車で通勤する人も観光に来る人も大幅に減る。つまり架橋もトンネルも先行きの短い計画と言える。

知事も市長も、鞆の活性化策は「観光」と位置づけているが、今後50年という長期的なスパンで観光客を鞆に呼び寄せ、永続的な産業として雇用を確保するには、公共交通の整備が有効と考える。私の案は昭和29年まで福山駅と鞆を結んでいた「鞆軽便鉄道」の復活だ。幸い駅前から水呑まで4車線となっており、軌道を敷設するスペースはある。広島駅から宮島まで走る民営の広島電鉄と同じイメージで良い。ラッキョウ列車の形をしたLRT（路面電車）が田尻の坂を越え、瀬戸内海に浮かぶ仙酔島が見えた時の素晴らしさは宮島線を超えるのではないか。